

# 実りの秋



中島支店では9月20日より米の集荷・検査が始まりました。今年は雨の日が続いたりと、刈取りが思うように進まず、組合員の皆さまも心配だったのではないでしょうか。それでも、皆様のおかげで、現在おおむね順調に集荷等作業が進んでおります。

今年は米の価格が大幅に上がりました。

毎年の気温上昇や物価高騰の中、少しでも組合員の皆様のお力になれればと思います。

季節は遅りますが

5月に中島幼稚園の園児さんたちによるアイガモの放鳥がありました。

アイガモを利用した有機栽培に取り組んでいる組合員さんが毎年体験を受け入れてくださっています。ドキドキした様子で1羽ずつ放鳥する園児たち。本当に貴重な体験となつたことでしょう。こういった機会を作っていただき、ありがとうございます。



## 秋のブロッコリーも

米の出荷と同様に秋のブロッコリーも9月下旬より出荷が始まっています。

集荷場では出荷されるブロッコリーを職員が品質チェック。組合員さんからの質問などにもお答えしながら受け入れを行っていました。



今年もからしみを作りおいしくできあがりました

台風も心配されましたが、今年も青空の下、恒例のからしみを作り! ピーマンと青とうがらしをミキサーにかけ、こうじと合わせて煮つめます。今年はきゅうりのキューチャン漬けも作りました。大活躍ですかい、いナシですね! 次回は焼肉のタレを作ります~



## 女性部

パンが無ければ、  
ケーキ(菓子)を食べればいいじゃない、

18世紀フランス革命の引き金ともなった、王妃マリー・アントワネットの言葉として広く知られています。飢餓と重税に苦しむ国民の窮屈を理解しない、贅沢三昧な生活をしていた王妃の無教養ぶりを示すネガティブな名言とされています。しかし近年の研究では、これは王妃本人が言ったものだという史実はどこにも残っておらず、国民から王室を「嫌われ者」とするため、時の思想家ルソーによって流布されたものというのが真相とする説が有力となっています。

マリー・アントワネットは、夫ルイ16世とともに国を財政難に陥れた戦犯とされ、処刑されてしまいますが、処刑前に幽閉されていたのが、今夏「パリ五輪」会場となったセーヌ河のほとりに残る「コンシェルジュリー」であったのも歴史の皮肉というものでしょう。

このところの物価高騰の波は、私たち庶民の生活を圧迫していますが、特に原料を輸入小麦に頼る「パン」や「ラーメン・麺類」の値段はべらばうに上がってしまいました。それに比べ、ご飯(お米)は、これまで小麦製品ほど上がっていませんでしたが、この秋はいよいよ米の価格も大幅に上昇しました。

米農家の立場とすれば、米の販売価格が上がったのは久しぶりのことであり、肥料農薬はじめ生産費が上がる中、「ようやく一息」といったところではないでしょうか。米の価格もまずは生産農家が再生産可能な水準が確保されるよう今後も願うところです。

落ち葉が風に舞い冷え込みが増してくる季節となりました、皆さまお体にご自愛ください。

令和6年11月 支店長 塩田哲弥

研修旅行に行きました

中島支部では研修旅行で、宮城方面へ行ってきました。豊かな三陸の海を再現した大水槽があり、人気の仙台うみの杜水族館や、金運や商売繁盛の御利益のある金蛇水神社などを訪れました。

金蛇水神社では  
錢洗いにも挑戦!



